

第1回写真・動画コンテスト部会 議事録

開催日時	令和元年6月18日(火) 19:00~19:40
開催場所	知立市役所現業棟 第10会議室
出席者	10名/11名
欠席者	1名/11名 (磯村洋子委員)
事務局	企画政策課長補佐 政策係担当

1. 自己紹介及び事務局説明

- ・5月31日に行われた実行委員会に出席できなかった、50周年事業プロジェクト(市職員による組織)から部会に参加する井上委員及び金原委員、事務局の林課長補佐、山本による自己紹介。
- ・手島委員より、消防団長の任期が3月までのため、今後の円滑な引き継ぎのため、今回から後任の池田副団長に引き継ぐと説明あり。
- ・鈴村部会長より、事務局に準備委員会での意見振り返りについての説明を求められ、次のとおり説明。今回の写真・動画コンテスト部会が立ち上がったのは、前年度発足した準備委員会で別紙「委員提案事業の整理」一覧にあるように、写真・動画コンテストにつながる意見が複数出たため。この意見を参考に、今年度写真・動画コンテストを具体化していくことが役割であると説明。

2. 事業内容等について

事業内容等について、下記の意見があった。

〈意見〉

- ・知立市には有名な知立神社と花しょうぶ以外にも、愛知県には咲いていない花がある等隠れた名所がある。そのように認知度の低い名所に来てもらうきっかけになる写真を集めてはどうだろうか。(小橋委員)
- ・40周年実施時の案は良い案だと思う。もし40周年時の事業がきちんと成立しているのであれば、大変参考になると思う。また、前は40周年と関連し、40選だった。今回は50周年なので前回同様冠等、何かの形で「50」と関連付けるようにしたらどうだろうか。(鈴村部会長)
- ・10選くらい集まった時点でコンテストの啓発のためにどこかで掲示をしてPRするのはどうだろうか。(小橋委員)
- ・先日文化協会の創作部門で動画を作成した。内容はドローンを使って無量寿寺を紹介する内容であったが、八橋の地名の由来となった紙芝居等、無量寿寺の中にも知られていないものがある。コンテストは知立市を他市に発信する場になればいいと思っているので、小橋委員が話されたように知立市民も知らないような隠れた名所について写真・動画を集められたらいいと思う。(近藤委員)
- ・Instagramで見本となる写真・動画を掲載するのはどうだろうか。Instagramが一番発信しやすいツールだと思う。(梶山委員)
- ・参加できるハードルは下げたい。Instagramはスマホ一つで参加できるので重きを置いていきたい。役所の実施事業の参加者は年齢層が高くなる傾向があると思う。若年層も取り込めるようにハードルを低く設けたい。(鈴村部会長)
- ・実施内容は写真と動画の2本立てでいいと思う。ただ、写真といっても、紙ベースとデジタルのもので差異があると思うので、中身の部分も2本立てにする必要があると思う。ただ、デジタルのものだと展示方法については媒体の準備等、今後検討が必要。(鈴村部会長)
- ・できるだけ多くの人に参加できる仕組みにすれば人が集まると思う。たとえば、保護者が知立市内の

どこかで子どもの写真を撮ってそれを応募できるくらいのハードルがいいと思う。40周年の要項からは、本格的な写真が得意な人向けのように感じる。(池田委員)

・審査方法は優劣でいきますか？(鈴木部会長)

部門を分けて優劣をつけるのはどうだろうか。ただ、技術を競うようなコンテスト要素が強いような審査ではなく、大勢の人が楽しめるような審査がいいと思う。(池田委員)

→この部会だけで審査するのではなく、実行委員会全体に了解を得る必要があると思う。(近藤委員)

・50周年事業自体の写真も応募してもらえたらいいと思うが可能か？(井上委員)

→40周年実施時の方法では事前に応募を締め切っているののでできない。ただ、審査の問題はあるがやり方次第で可能だと思う。(事務局)

3. その他意見等

・40周年時の応募総数は？(鈴木委員)

→把握できていない。別途報告させてもらう。(事務局)

・初回の到達目標は？(鈴木委員)

→第4回までに予算を一通り固める必要があるの、逆算して設定してほしい。他の部会だと1回目で顔合わせをし、次回までの宿題を出し、それを各委員が調べて2回目までに事務局に提出するやり方をしている部会もある。(事務局)

・部会はどれくらいの頻度で行うのか。(鈴木委員)

→予定では月に1回。ただ、増やすことも減らすことも可能。(事務局)

・部会間の情報共有は必要だと思う。その点はどうか？(近藤委員)

→次回は9月25日に全体会を開催予定。必要があれば部会長に他の部会の情報提供をさせてもらう。(事務局)

・他の部会から内容についての指摘事項があった場合、9月の全体会開催では遅いと思うが、基本的にそのような指摘はないと認識してよいか？(鈴木委員)

→ない前提でいる。(事務局)

・部会長と事務局のみの会合は予定しているか？(鈴木委員)

→要望があれば開催していきたい。(事務局)

4. 次回までの課題

・委員は、7月5日(金)までに事務局までコンテストのプラン案(実施内容、会場等。審査方法、応募内容は第2回以降でもいい)をメールする。

・次回は、7月9日(火)19:00から第10会議室で開催する。

・事務局は、上記をまとめて、次回部会開催日に各委員に配布する。

・事務局は、40周年の応募総数を次回部会開催日までに確認する。